

医

療費適正化を考える

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は先発医薬品より安価で、医療費適正化に有効です。特に長期間薬を服用する高血圧や糖尿病など、生活習慣病の医療費を減らすことができます。

先発医薬品とジェネリック医薬品の医療費負担額の差額は？

高血圧		1割負担	3割負担
先発医薬品		5,110 円	15,330 円
ジェネリック医薬品	安いタイプ	360 円	1,090 円
	高いタイプ	2,190 円	6,570 円
1日1錠365日服用した場合の差額	安いタイプ	4,750 円	14,240 円
	高いタイプ	2,920 円	8,760 円

糖尿病		1割負担	3割負担
先発医薬品		4,380 円	13,140 円
ジェネリック医薬品	安いタイプ	1,820 円	5,470 円
	高いタイプ	2,550 円	7,600 円
1日1錠365日服用した場合の差額	安いタイプ	2,560 円	7,670 円
	高いタイプ	1,830 円	5,480 円

出典：政府広報オンライン「安心してご利用ください ジェネリック医薬品」

かかりつけ医を持ちましょう

急な病気の場合はもちろん、些細なことも気軽に相談できるかかりつけ医を持ちましょう。

気になることや症状が悪化する前にかかりつけ医に相談しましょう。

頻回受診になっていませんか？

同じ病気で複数の医療機関を受診したり、日を置かずに何度も医療機関を受診すると、重複する検査や投薬で体に悪影響を与えてしまう恐れがあります。

時間内に受診しましょう

体調が悪いときは軽い症状でも昼間の診療時間内に受診しておきましょう。時間外は医療費が増料金で高くなります。

ジェネリックで医療費負担を軽減

薬には特許期間があり、開発した会社以外は同じものを作ることができません。特許期間を経過すると他社でも安価に製造できるようになり、その薬をジェネリック医薬品と呼びます。

先発医薬品というものは動物実験などの研究を行い、安全性を確かめながら開発されるので、薬ができるまでの時間は数年かかります。特に日本は薬事審査が厳しいので、かかる研究開発費が高くなります。先発医薬品の薬価にはこの研究開発費も含まれています。

もちろん、ジェネリック医薬品も厚生労働省の審査に通っている薬で、先発医薬品と効能効果も一緒ですし、副作用の出現状況も全く一緒です。当院でも長期間服薬が必要な患者さんの医療費負担を軽減する目的で、病気の種類によっては勧めています。

ジェネリック医薬品は何十年前前からあり、現在では多くの病院で使用されていますし、先発医薬品と同じ薬ですので、安心して服用してください。



上益城郡医師会副会長
東熊本病院
ながた そういち
永田 壮一 院長